

## 巻頭言

三井住友建設技術研究所報第6号の発刊にあたり、ご挨拶申し上げます。

建設業界を取り巻く昨今の状況は、公共投資の縮減傾向が続き、総合評価落札方式の拡大、原油価格、鋼材価格の高騰に伴う工事費の上昇など、劇的に変化していますが、ここに来て、米国の金融危機が我が国の実体経済にも波及しはじめるなど、今後の予測が極めて困難です。

また、耐震偽装問題に端を発したエンドユーザーの品質への関心の高まり、建物に求められるニーズの多様化・高度化など、よりきめ細やかな対応が必要になっています。

このような状況のもと、当社は「信頼の三井住友建設ブランド」を確立するために、土木分野では「橋梁高品質化委員会」、建築分野では「住宅高品質・高機能化委員会」を立ち上げました。

「橋梁高品質化委員会」では、橋梁の安全性に対する社会的な関心の高まりに呼応し、100年橋梁を確実に構築する技術の蓄積、さらに200年橋梁を目指した高品質化技術の開発、橋の一生を見据えた維持管理技術の開発に取り組んでいます。

「住宅高品質・高機能化委員会」では、性能品質、施工品質、サービス品質の3つの要素を品質ととらえ、それぞれの施策を展開すると同時に、環境、健康、防災、長寿命などを考慮した新しい集合住宅の開発を行っています。

今、さらなる淘汰の時代を迎えて、技術開発の手を緩めることはできません。これらの、特化技術のみならず、第二、第三の柱を構築していくためにも、アンテナを高くし、様々な情報をつかみながら、技術開発の芽を模索することが重要です。技術開発は、「未知への挑戦」ですが、建設行為は「ものづくり」が基本です。この「ものづくり」への徹底したこだわりのなかから、技術を生み出し、それを顧客から信頼される技術へと昇華させていくことが必要ではないかと考えます。

技術研究所報告を多くの方々にご覧頂き、ご批評を賜れば幸いです。

2008年11月

取締役 常務執行役員  
技術研究開発本部長兼技術研究所長  
黒崎 幸夫